

Date

県内経済 〈8月〉

概況

県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

電子部品、木材の生産は前年を上回ったものの、機械金属は低迷が続いている。建設は、公共工事、住宅着工ともに前年を下回った。個人消費は全体として回復の兆しがみられる。雇用情勢は弱い動きとなっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、スマートフォン向けで回復していることなどから、3か月連続で前年を上回った。機械金属の生産額は、ウエイトの高い輸送機械で海外、国内向けとも低迷が続き、18か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（7月）が8か月連続で前年を上回り、製材品も前年を大幅に上回った。公共工事請負額は、4か月ぶりに前年を下回ったが、年度累計では前年を上回った。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事、民間工事とも振るわず、2か月連続で

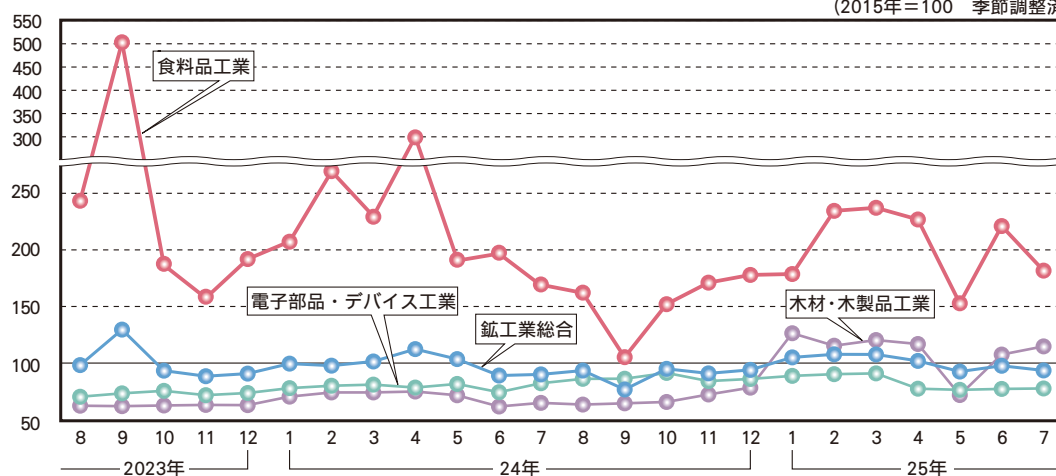
前年を下回った。住宅着工は3か月連続で前年を下回った。個人消費は、新車乗用車販売台数が4か月連続で前年を下回ったが、小売店販売額（7月）は5か月連続で前年を上回るなど、全体として回復の兆しがみられる。

有効求人倍率は前月比 0.01 ポイント上昇の1.22倍となった。新規求人数は前年比 5.4%減と2か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比 37.2%増と5か月ぶりに前年を上回った。

企業倒産件数は3件、負債総額は4億4,400万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」



電子部品

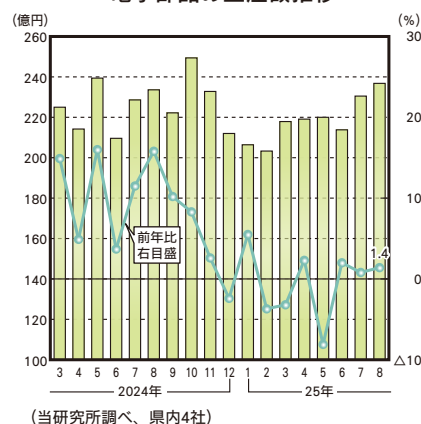
生産額、3か月連続で前年比増加

8月の生産額は前年比1.4%増となり、3か月連続で前年実績を上回った。

車載向けは電気自動車（EV）市場の低迷が続いていることから伸び悩んでいるものの、スマートフォン向けは回復してきているほか、その他民生機器向けや産業機器向けも好調を持続していることから、総体では増加傾向にある。

その他品目別では、増勢が続いていた液晶パネルは一服感がみられるものの高水準を維持しており、半導体素子も堅調に推移している。減少傾向にあった主力のセラミックコンデンサやコイルも持ち直してきている。

電子部品の生産額推移



機械金属

生産額、大幅減

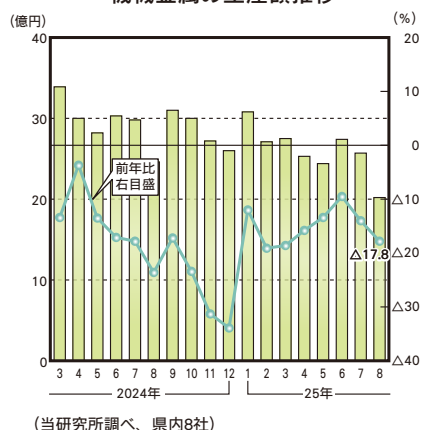
8月の生産額は前年比17.8%減となり、18か月連続で前年実績を下回った。前月からも大幅に減少した。

ウエイトの高い輸送機械は、海外向けの不振が続いていることに加え、国内向けも一部メーカーの生産終了車両の影響が大きく低迷しており、総体では減少幅が拡大している。

その他民需関連では、増勢が続いていた産業機械は減少に転じているほか、建機部品も大幅減となっている。金型は一進一退の動きとなっている。

公共工事関連では、橋梁・鉄骨は堅調に推移しているものの、水道部品は減少に歯止めがかかっていない。

機械金属の生産額推移



木材業

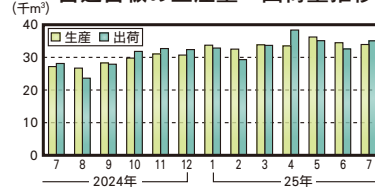
普通合板が8か月連続で前年比増加

新設住宅着工の低迷による需要不足から、全国的には木材・木製品の生産・出荷量の伸び悩みが続いているが、本県では県内大手の増産と県北の大型製材工場稼働により、製材の供給増加が続いている。

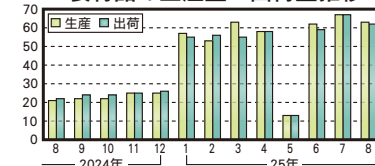
7月の普通合板は、流通段階での在庫調整が進んだことなどにより、生産量は前年比24.9%増、出荷量も同24.7%増といずれも8か月連続で前年を上回った。

8月の製材品は、県北での大手製材工場稼働の影響等から、生産量が前年比200.0%増、出荷量が同181.8%増と、ともに前年を大幅に上回った。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

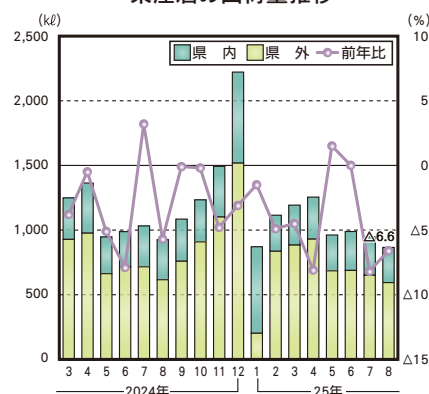


酒 造 業

出荷量、2か月連続で前年比減少

8月の清酒出荷量は、前年比6.6%減となった。節約志向の高まりや猛暑の影響などから、2か月連続で前年を下回った。出荷先別では、県内向けは同12.5%減と前年比二桁の減少率となったほか、県外向けも同3.7%減と前年を下回った。県外の主な出荷先別では、北海道は同5.6%増、東北5県も同3.0%増と前年を上回ったものの、東京が同19.1%減と前年を大きく下回った。種類別では、普通酒は同13.3%減、特定名称酒は同1.1%減となり、ともに前年を下回った。特定名称酒の内訳では、純米酒が同4.3%増となった一方で、吟醸酒は同3.6%減、本醸造酒も同5.3%減と前年を下回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建 設 業

公共工事 県、市町村等が減少し前年を下回る

8月の公共工事請負金額は、県、市町村等が減少し、総体では前年比30.7%減と4か月ぶりに前年を下回った。4月からの年度累計実績は、前年同期比8.5%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の8月の新規受注額は、前年比64.8%減の1,512百万円となり2か月連続で前年を下回った。うち官公庁工事は、国の地方庁舎建築改修等の大口工事があったものの、同46.8%減と前年を下回った。民間工事は、大口工事がなく、同91.3%減と前年を大幅に下回った。4月からの年度累計実績は、前年同期比5.1%減となった。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区 分	8月	前年比	4～8月	前年同期比
件 数	241	△13.6	1,328	△3.7
請負金額	12,823	△30.7	124,897	8.5

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区 分	8月	前年比	4～8月	前年同期比
官 公 庁	1,361	△46.8	9,344	△1.2
民 間	151	△91.3	2,788	△16.2
合 計	1,512	△64.8	12,132	△5.1

(当研究所調べ、県内12社)

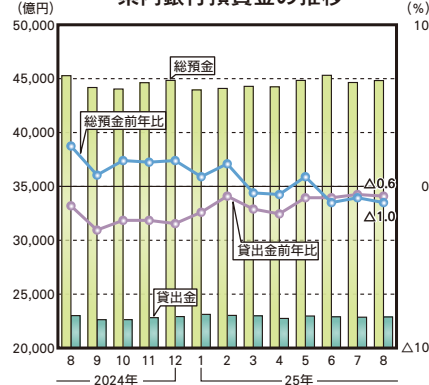
金 融

預金、貸出金とも前年割れ続く

8月末の県内銀行の預金は、前月末比181億円増加したものの、前年比では1.0%の減少となった。貸出金は、前月末比18億円増加したものの、前年比では0.6%の減少となった。預金は3か月連続で、貸出金は25か月連続で前年を下回り、減少幅はいずれも前月に比べやや拡大した。

8月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は3件(前年比横這い)、負債総額は4億4,400万円(同81.2%増)となった。倒産件数は、前月比でも横這いとなり、小康状態が続いている。負債総額は、負債額1億円以上の倒産が2件発生したため、前年同月を上回った。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会



住宅着工

着工戸数、前年比減少幅が拡大

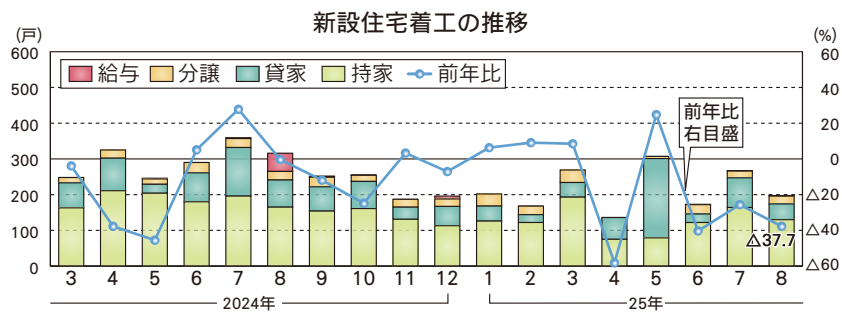
8月の県内新設住宅着工戸数は、197戸（前年比119戸減、37.7%減）と、3か月連続で前年を下回った。4月の建築物省エネ法改正前に生じた駆け込み需要増からの反動減に加え、前年の給与住宅の着工（51戸）による大幅増からの反動減が重なり、前年比減少幅は前月から拡大した。

利用関係別では、持家が130戸（前年比35戸減）、貸家が44戸（同32戸減）、分譲

住宅が22戸（同2戸減）、給与住宅が1戸（同50戸減）となった。

持家と分譲住宅は5か月連続で前年を下回った。貸家は、秋田市と北秋田地域で減少し、3か月連続で前年を下回った。

地域別では、県北・県央・県南の全地域で前年を下回った。全地域で持家の着工が減少したほか、県北は給与住宅、県央は貸家、県南は分譲住宅の着工も減少した。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向 (単位: 戸、%)				
区分	2025年8月	前年比	25年1～8月	前年比
県北	46	△51.6	264	△39.6
県央	114	△30.5	1,093	△9.6
県南	37	△35.1	362	△24.9
合計	197	△37.7	1,719	△19.2

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

全体として回復の兆しがみられる

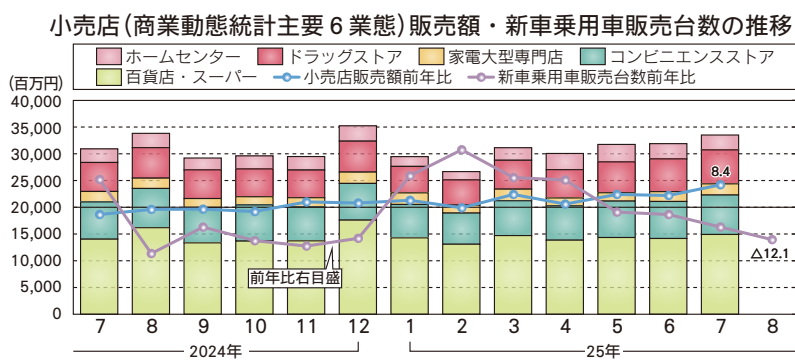
7月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比8.4%増となり、5か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、ドラッグストア（前年比17.1%増）、ホームセンター（同9.3%増）、家電大型専門店（同6.7%増）、百貨店・スーパー（同6.3%増）、コンビニエンスストア（同5.9%増）とすべての業態で前年を上

回った。

8月の新車乗用車販売台数は、新型モデル車等の市場投入が少なかったことなどから、前年比12.1%減と4か月連続で前年を下回った。

内訳をみると、登録車が同8.5%減と4か月連続で前年を下回ったほか、軽乗用車も同16.8%減と3か月連続で前年を下回った。



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

8月の新車乗用車販売台数 (単位: 台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	1,873	△12.1
登録車	1,095	△8.5
普通車	602	△6.2
小型車	453	△11.4
輸入車	40	△9.1
軽乗用車	778	△16.8

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標(前年比) (単位: %)

区分	2025年5月	6月	7月
①消費者物価指数	2.8	2.4	1.8
②勤労者名目賃金	△2.0	△2.5	7.9

資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

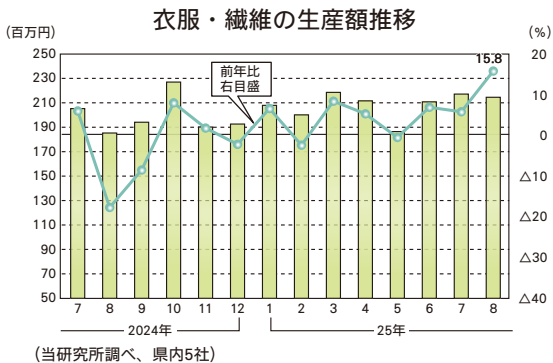
衣服・繊維

生産額、3か月連続で前年比増加

8月の生産額は、カジュアル系の夏物衣料が好調に推移したことなどから、前年比15.8%増と3か月連続で前年を上回った。

受注は、繁忙期の秋冬物が堅調なことなどから、3か月連続で前年を上回った。

来年3月の最低賃金引上げに向け、メーカーとの工賃引上げ交渉が急務となる。



雇用

弱い動き

8月の有効求人倍率(季調値)は、前月比0.01ポイント上昇の1.22倍となった。常用の内訳では、一般は同0.04ポイント上昇の1.42倍、パートは同0.05ポイント上昇の0.81倍となった。

新規求人数は前年比5.4%減となり、2か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同9.8%減となった。「食料品」「金属製品」で増加したものの、「繊維」で前年に増加した反動減があったほか、その他の業種でも減少した。非製造業は同4.8%減となった。「運輸、郵便」「宿泊、飲食サービス」で増加したものの、「卸売、小

売」で採用が一定程度進んだことや人員精査により求人を控える動きがあったほか、「医療、福祉」でも介護施設の廃止の影響などにより減少した。

新規求職者数は前年比0.6%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は前年比37.2%増となり、5か月ぶりに前年を上回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.38倍、県央が1.17倍、県南が1.04倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

区 分		2025年7月		8月	
		前年比		前年比	
新	規 求 人 計	7,349	△2.4	6,546	△5.4
主 要 業 種 の 内 訳	製 造 業	783	△9.5	714	△9.8
	食 料 品	145	45.0	128	21.9
	織	101	△10.6	97	△21.8
	木 材 ・ 木 製 品	29	△21.6	22	△21.4
	金 属 製 品	47	△32.9	65	14.0
	電 子 部 品 ・ プ ラ ス チ ック ・ 電 子 回 路	107	△29.6	96	△9.4
	電 気 機 械 器 具	47	△25.4	38	△5.0
	非 製 造 業	6,566	△1.5	5,832	△4.8
	建 設	984	4.9	853	△2.5
	運 輸 , 郵 便	376	31.5	351	15.1
	卸 売 , 小 売	947	△15.1	809	△12.2
	宿 泊 , 飲 食 サ ー ビ ス	572	△15.9	608	21.1
有 効 求 職 者 数	生 活 関 連 サ ー ビ ス , 娯 楽	228	△8.4	204	△1.4
	教 育 , 学 習 支 援	159	120.8	60	△63.9
	医 療 , 福 祉	1,448	3.3	1,376	△3.2
	サ ー ビ ス	994	△6.9	962	△1.9
	新 規 求 職 者 数	3,185	△2.4	3,018	0.6
有 効 求 職 者 数		15,811	0.5	15,104	0.7

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区 分		2025年5月 6月 7月 8月			
		前年比		前年比	
有 効 求 人 倍 率	一 般	1.33	1.37	1.38	1.42
	パートタイム	0.69	0.69	0.76	0.81
	全 数 (季 調 値)	1.20	1.20	1.21	1.22
事業主都合離職者数		153	119	171	262
前 年 比		△40.5	△33.1	△24.0	37.2

8月の地域別雇用状況(パートを含む常用)

区 分		新規求人数		有効求人倍率	
		前年比		前月比	
県 北	1,441	△3.0	1.38	0.08	
県 央	3,107	△0.4	1.17	0.05	
県 南	1,446	△16.6	1.04	0.04	
合 計	5,994	△5.4	1.18	0.05	

(注) 臨時・季節を除く